

日 時	令和２年３月２７日　午後３時３０分～午後４時４５分
会 場	古河庁舎２階　特別会議室
出席者	〔構成員〕 針谷市長　　　　　　　鈴木教育長 櫻井教育長職務代理者　綾部教育委員 篤教育委員　　　　　小林教育委員 〔事務局関係〕 中田企画政策部長　　　鈴木教育部長 長谷川企画課長　　　　塚原参事兼教育総務課長 植野企画課係長　　　落合参事兼学校教育施設課長 石井指導課長 小坂指導課指導主事 中根指導課指導主事
傍聴者	なし
議 題	(１) いじめ問題について ◆令和元年度の状況 市内小中学校のいじめの認知件数と態様及び現況の報告。 ◆委員による意見（主な意見を抜粋） 引き続き早期発見、早期の情報交換、学校と教育委員会の連携を進めていくこと。市内小中学校において行われている情報モラル教育の研修を引き続き進め、さらに充実させるとともに、親子でも学べるような機会が作れば良い。 (２) ＩＣＴ教育について ◆今後の整備方針 国の「ＧＩＧＡスクール構想」の実現に向けた計画期間に合わせ、令和５年度までに小・中学校全３２校の児童・生徒１人１台の端末整備を行う。また、令和２年度に既存のＬＡＮケーブルを高速大容量回線の接続が可能なケーブルに変え、新たに無線ＬＡＮ環境の整備を行う。 ◆プログラミング教育・情報モラル教育 プログラミング教育については、今までに市内のモデル校（大和田小学校）で実施したノウハウを生かし、本格実施に向けて今後也有識者を招いての授業研究会や各種研修会を実施する。また、子どもたちのＳＮＳに係るトラブルが社会問題をなっているなかで、情報モラル教育の充実に努めていく。 ◆委員による意見（主な意見を抜粋） ＰＣ機器には寿命もあり、ソフトとの対応もあるため、「ＧＩＧＡスクール構想」の実現に向けて計画的に実施していくようにすること。 ＩＣＴ教育については、教師の資質向上を図るためにも、各学校で協力しながら研修を行うこと。

【裏面あり】

	(3) 古河市における今後の学校教育の在り方と学校規模について ◆市内小中学校の規模と今後の教育の在り方について 市内小中学校の児童生徒数は減少傾向が続いている。令和3年度から上大野小学校が複式学級になることが見込まれ、教員に対する特別な指導技術と負担が大きくなることが懸念される。一方で、小規模校にあるメリットを最大限活かして、ICTを効果的に活用するなどの取り組みを行う。 ◆委員による意見（主な意見を抜粋） 市内小中学校の児童生徒数減少による学級の適正配置、学校の統廃合については、仕方のないところもある。
その他	特になし